

## ベトナム・インフラストラクチャー・ファンド

Vietnam Infrastructure Fund

ケイマン籍オープンエンド型外国投資信託  
月次レポート 2019年2月

### 【当ファンド(ベトナム・インフラストラクチャー・ファンド)の特徴】

当ファンドの投資目的は、フォーラム・ワンのサブ・ファンドである、フォーラム・ワン - VCG パートナーズ・ベトナム・ファンド（以下「VVF」といいます。）のクラス A 投資証券（以下「VVF 投資証券」といいます。）への投資を通じて特定のベトナム資産へのエクスポージャーを提供することです。

### 【VVF 概要】

VVF は、フォーラム・ワンのサブ・ファンドです。VVF の投資目的は、主として、業種または地理的な制限のない分散化されたポートフォリオへの投資を通じて、その資産の長期的な元本成長を達成し、投資元本の価値を増加させることです。VVF は、主として ① ハノイ証券取引所および／またはホーチミン証券取引所で上場または取引されている発行体、② 経済活動の主要部分をベトナムで行い、世界中の株式市場で上場または取引されている発行体、のいずれかの発行体の有価証券に投資を行います。

### 【投資運用会社概要】

VVF の投資運用会社であるビナウエルスは、ベトナムの資産運用会社であるビナキャピタル・グループに属する会社です。同じくビナキャピタル・グループに属する運用会社ビナキャピタルは、現在、AIM で値付けされ、ベトナムにおける上場および非上場の株式、債券、転換ローンおよび不動産への投資に重点を置く投資法人であるベトナム・オポチュニティ・ファンド、ならびにベトナムの不動産セクターへの投資に重点を置く AIM で値付けされる投資法人であるビナランド・リミテッドの投資運用会社として活動しています。ビナキャピタルはまた、テクノロジー関連のベンチャー・キャピタル・ファンドである DFJ ビナキャピタル LP をドレーパー・フィッシャー・ジャーベトソンと共同運用しており、その他にもベトナムに重点を置いた様々な投資商品を運用しています。

- 書面は管理会社である IQ EQ マネジメント・パミューダ・リミテッド（旧法人名：ムーア・マネジメント（パーミューダ）リミテッド）が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書面の内容は事前の通知なく変更されることがあります。

## 【月次パフォーマンス】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年次
2007	-	-	-	-	-	-2.48%	-0.48%	-6.79%	6.29%	2.27%	-5.96%	-1.32%	-8.75%
2008	-14.26%	11.92%	-7.91%	-6.47%	-9.29%	-18.18%	5.27%	-14.29%	-28.95%	-40.30%	-22.08%	5.93%	-80.62%
2009	40.05%	-7.96%	16.10%	-15.27%	45.94%	3.88%	2.32%	-4.77%	6.37%	2.87%	0.97%	-8.28%	89.82%
2010	11.68%	-0.67%	8.51%	-7.95%	-7.56%	-1.02%	1.03%	-2.09%	3.89%	5.78%	-0.11%	-2.79%	7.03%
2011	0.14%	-4.06%	-6.58%	2.20%	-10.74%	-1.09%	-3.78%	-11.43%	-7.34%	-1.57%	-4.56%	-7.65%	-44.52%
2012	0.30%	10.51%	11.95%	0.28%	-16.05%	-5.62%	16.49%	1.97%	7.75%	5.88%	2.82%	-2.78%	33.57%
2013	4.70%	4.52%	3.64%	0.50%	2.37%	-0.90%	-0.49%	0.85%	-0.45%	1.53%	9.74%	-3.04%	24.79%
2014	0.51%	6.47%	5.49%	-0.64%	-7.17%	-2.08%	7.62%	0.99%	3.53%	3.28%	-0.81%	-1.90%	15.29%
2015	1.17%	-3.12%	-0.72%	-0.30%	-1.64%	1.86%	5.48%	-20.27%	-1.82%	-1.30%	10.09%	-2.90%	-15.33%
2016	4.38%	5.41%	-2.80%	4.07%	0.36%	-2.54%	11.16%	3.80%	24.92%	-1.71%	-4.00%	-2.90%	43.76%
2017	4.85%	0.29%	2.53%	0.24%	2.94%	5.51%	-2.50%	2.27%	1.83%	-2.14%	12.65%	5.44%	38.52%
2018	9.88%	-0.54%	-1.37%	-9.17%	-4.48%	-6.27%	-2.95%	3.80%	6.84%	-9.58%	-1.45%	-1.73%	-17.39%
2019	-1.24%	3.26%											1.99%

## 【ファンドの運用状況】

## ファンドの基礎データ

設定日	平成19年6月18日
償還日	定めなし
決算日	年1回（原則4月30日）
* 基準価額	54.41 米ドル
* 受益権口数	288,923 口
* 純資産総額	15.72 百万米ドル
* 設定来騰落率	-45.59 %

\* 基準日現在

## 運用状況のハイライト

当ファンドの一口当たり基準価格は  
2019年2月28日現在54.41米ドルとなりました。

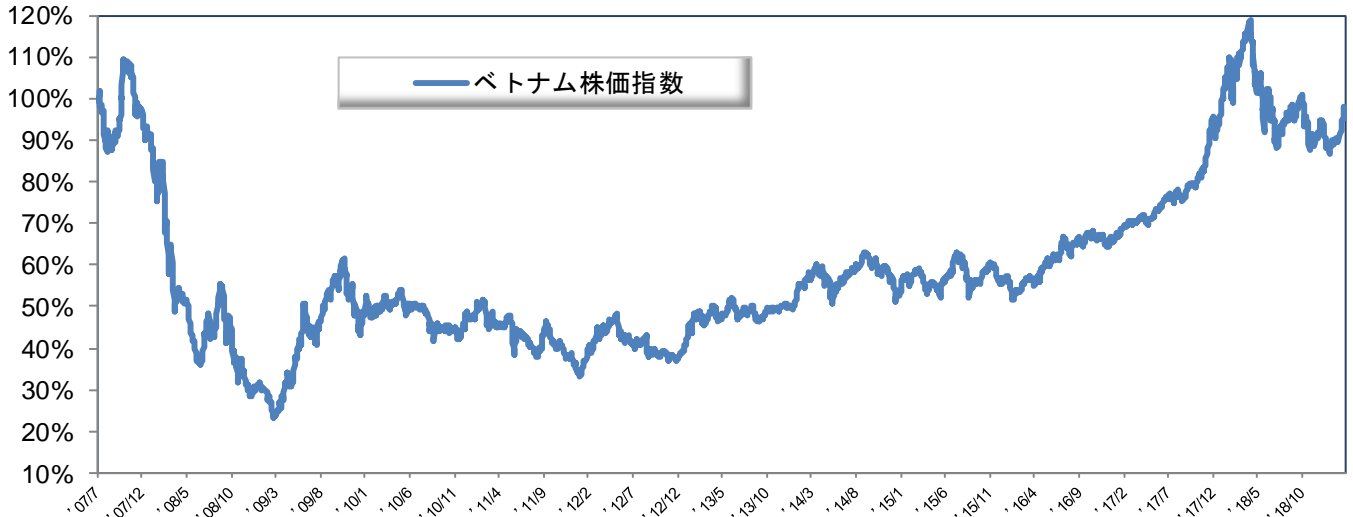
2019年2月28日現在、当ファンドの月次騰落率は  
3.26%、設定来騰落率は-45.59%となりました。

- 書面は管理会社であるIQ EQ マネジメント・パミューダ・リミテッド（旧法人名：ムーア・マネジメント（パーミューダ）リミテッド）が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書の内容は事前の通知なく変更されることがあります。

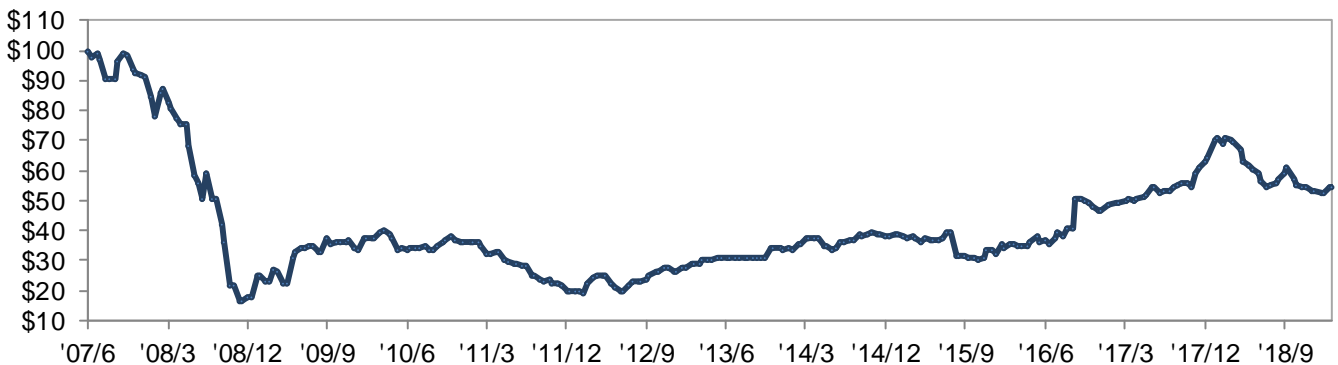
ベトナム・インフラストラクチャー・ファンド

Vietnam Infrastructure Fund

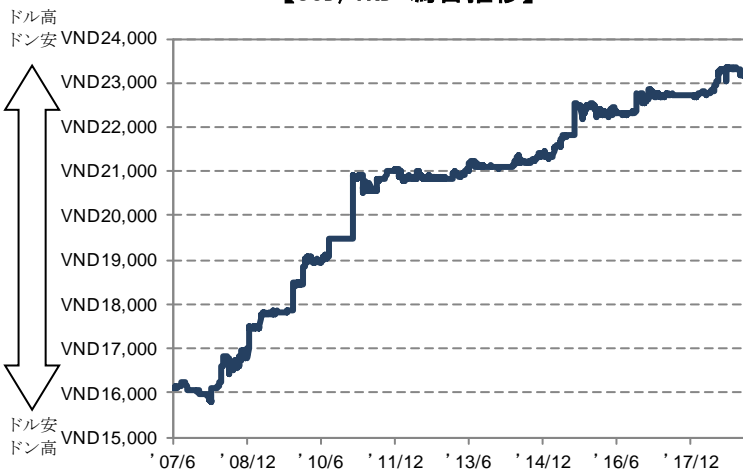
ケイマン籍オープンエンド型外国投資信託  
月次レポート 2019年2月



【基準価額の推移】



【USD/VND 為替推移】



【JPY/VND 為替推移】



- ベトナム株指数、為替推移のデータの出所はブルームバーグです。
- ベトナム株指数としてベトナム VN 指数(ベトナム証券取引所上場の全銘柄で構成された時価総額加重平均の株価指数)を用いております。ベンチマークではなく、あくまでご参考情報です。

- 書面は管理会社である IQ EQ マネジメント・パミュエダ・リミテッド(旧法人名: ムーア・マネジメント(パミュエダ)リミテッド)が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書の内容は事前の通知なく変更されることがあります。

## 【マーケット・コメント】

以下は、VVFの運用会社が作成している英文の資料に基づき、管理会社側で作成した参考訳です。正式な英文、また、固有名詞の英文での表記については、同運用会社が作成している英文の資料をご参照ください。

## VVFの投資運用会社のコメント

2月のベトナム株価指数（VN指数）は素晴らしい成果を上げ、米ドル換算で6%上昇し、平均で0.7%下落したASEAN新興国株式市場を大きく上回る結果となりました。この力強い株価上昇の牽引役は外国人投資家であり、当月の外国人買越額はホーチミン証券取引所（HOSE）、ハノイ証券取引所（HNX）、およびハノイの未上場株取引市場（UPCoM）の合計ベースで6,800万米ドルに上りました。その資金の大半が向かった先は、マサングループ（MSN、7,500万米ドル）、ホアファット鉄鋼グループ（HPG、2,700万米ドル）、ベトコムバンク（VCB、1,800万米ドル）など大型株でした。「テト」と呼ばれる旧正月の休暇が終わり、投資家が市場に戻る中、流動性の指標である一日平均売買代金は1億8,500万米ドルに上り、前月比で75%の急増となりました。セクター別株価上昇率では、不動産（+8.5%）、生活必需品（+5.8%）、素材（13.4%）が上位に名を連ねました。株式市場の上昇が流動性主導であったことを反映して、当月はビングループのグループ企業（ビングループVIC +10%、ビンホームズVHM +9%およびビンコムリテールVRE +13%）が、不動産セクターばかりでなく、VN指数の株価上昇にも大きく貢献しました。

トランプ大統領が対中交渉期限の延長を示唆したのを受け、貿易交渉をめぐる楽観的な見方から、投資家心理が改善しました。またハノイ開催の米朝首脳会談への楽天的な見方、具体的にはベトナムと米国の貿易関係の更なる強化につながる可能性への期待も、投資家心理の改善につながりました。トランプ大統領は米朝首脳会談前に、ベトナム企業が米国企業と総額210億米ドルに上る事業契約に署名する場に立ち会いました。国内の動きを見ますと、ベトナムが新興国市場へ格上げされるのではないかと、銀行システムの潤沢な流動性、および低い債券利回りが、国内投資家心理の高揚を支えました。2月の市場の躍進により、実績PERは1月の15.3倍から16.2倍に上昇しましたが、ベトナム株式市場のバリュエーションはASEAN加盟各国株式市場の中で依然として最低水準にとどまりました。

当月のVVF（以下「当ファンド」）のクラスA株式一株当たり純資産価格は3.6%上昇しました。VN指数をアンダーパフォームした要因は、当ファンドがバリュエーションの高い大型株をアンダーウェイトしていたためであり、これらの大型株が最近の流動性主導かつ外国人投資家資金主導の流れを追い風に一層値上がりしました。さらに、当ファンドの主要な保有銘柄の一部は、外国人保有比率上限に達しているため、外国人投資家は証券取引所でこれらの株を購入できず、株価の値動きが株式市場の平均を下回りました。当ファンドに当月、最もプラス貢献した銘柄はホアファット鉄鋼グループ（HPG）で、不振だった1月から見事に反騰しました（+21.3%）。同社は2019年最初の2カ月で45万トンを超える建築用鋼材を販売したと発表しました。これは前年同期比で24.5%増に相当します。同社はベトナムの建築用鋼材セクターで最大の市場シェア（26%）を有しています。

当ファンドは2月に、ロジスティクス・セクター1社の銘柄を新たに組み入れた一方、ある程度値上がりしたコングロマリット1社のポジションを一部売却しました。3月には株主総会シーズンが始まり、企業幹部が次の2カ月間、自社の事業戦略、収益見通し、そして配当政策について指針を示すこととなります。差し当たり、我々の予想では、現在の株価水準に基づく当ファンドポートフォリオの予想PERは12.2倍、EPS成長率は15.1%となり、ブルームバークによる市場の予想PER15.8倍を大きく下回っています。2月の株価上昇の後、国内投資家が利益確定に動いて、市場は一服するかもしれませんが、ベトナム株式市場の長期見通しは依然として魅力的であり、バリュエーションは他のASEAN加盟各国株式市場よりも17%割安になっています。当ファンドは今後も引き続き新たな投資機会に目を配るとともに、正当な場合は利益確定の売りを実施していきます。

- 書面は管理会社であるIQ EQ マネジメント・パミュューダ・リミテッド（旧法人名：ムア・マネジメント（パミュューダ）リミテッド）が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書の内容は事前の通知なく変更されることがあります。

### マクロ経済の状況

ベトナムの2月のインフレ率は前月とほぼ変わりませんでした。消費者物価は前年同期比で2.6%上昇しました。ただし、前月比では0.8%の上昇となり、その主な要因は2月2日に始まった旧正月休みのために、食料価格が前月比1.7%上昇したことでした。(ベトナムでは2月の豚肉価格は前月比3%下落したとはいえ)中国で発生した豚インフルエンザが原因で、食料価格が年初から日が経つにつれて上昇する可能性も否定できず、また政府の最近の発表によれば、消費者向け電気料金が3月に8%値上がりします(これにより、消費者物価指数(CPI)は約0.4パーセント・ポイント押し上げられることになります)。したがってベトナムのインフレ率は2019年の年末までに、制御可能な水準の3.5%に達すると予想されます。

経済成長は引き続き堅調に推移していますが、前年同期比のGDP成長率は、比較対象となる2018年初めにサムスの生産が急拡大した影響を受け、抑制される可能性があります。昨今の人気を博したGalaxy S9スマホの生産時期であったからです。具体的に数字を挙げれば、2019年の年初来2カ月間の製造業生産高の増加率は12%となり、前年同期から鈍化しました。さらに、2019年の年初来2カ月間の原油生産は、生産の制約のために前年同期比で12%減少しました。ただし、ベトナムを拠点とする新しい石油精製所が立ち上がったため、ガソリン生産はほぼ倍増しました。

サムスの影響は輸出にも及びました。以前言及したように、同社はベトナムの輸出の4分の1を占めています。そのため、前述のスマホ生産の減少が響き、当月のハイテク製品輸出は4%減少しました。ちなみにハイテク製品はベトナムの輸出全体の約3分の1を占めています。ベトナム統計総局(GSO)の推定によれば、2月の貿易収支は9億米ドルの赤字になったと見られます。この推定値に基づけば、年初来の貿易収支は8,000万米ドルの赤字になります。GSOによれば、2019年年初来2カ月間に、輸出は前年同期比6%増加し、輸入は同8%増加しました。ただし、GSOの当初の月次貿易推定額はベトナム税関総局が通常2~3週間後に発表する最終額と著しく異なることに留意する必要があります。

2019年末までの輸出成長の見通しは、ベトナムでも他のアジア諸国でも受注状況が弱含んでいるため、雲行きがやや怪しくなっています。輸出受注の低迷により、製造業の月次雇用状況が3年ぶりに落ち込んだことから、日経調査によるベトナムのPMI(製造業購買担当者景気指数)は、1月の51.9から2月には51.2に低下しました。

最後に、2月下旬のトランプ米国大統領のハノイ滞在中、ベトジェットエアおよびバンブー・エアウェイズが、ボーイングおよびゼネラル・エレクトリック(GE)から、総額210億米ドル相当の航空機とジェットエンジンを購入する契約に署名しました。ベトナムの対米貿易黒字は2017年の410億米ドルから2018年には350億米ドルに減少しました。その主な要因は、米国からの輸入額が37%増の130億米ドルに急増したことでした。

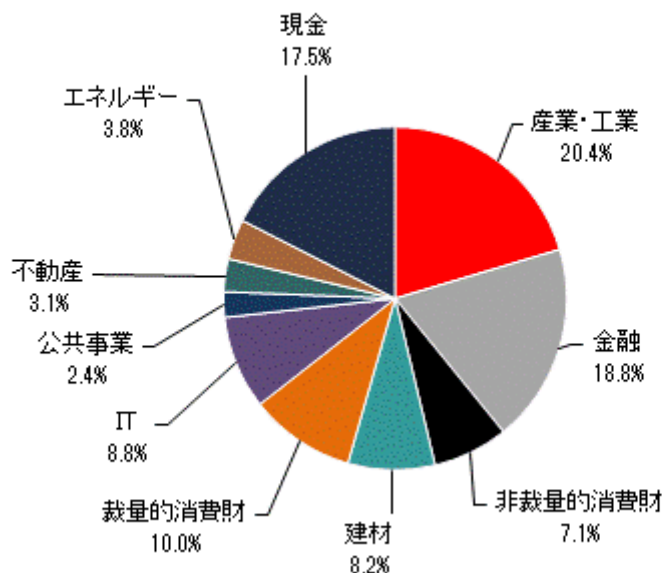
ベトナムドンの2月の為替レートは前月と変わりませんでした(ただし非公式レートは年初来0.3%ほど上昇)。この為替の安定を支えている要因は、ベトナム国営銀行が外貨準備を使って年初来40億米ドル以上の米ドルを購入したこと、および年初来2カ月間の外国直接投資(FDI)流入額が前年同期比10%増の26億米ドルに上ったことでした。

- 書面は管理会社であるIQ EQ マネジメント・パミューダ・リミテッド(旧法人名:ムーア・マネジメント(パーミューダ)リミテッド)が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書の内容は事前の通知なく変更されることがあります。



## 【VVF の資産配分状況】

業種別組入比率（対NAV比）（%）



## 【VVF の保有組入銘柄上位】

	銘柄名 (※1) (※2)	業種	比率	概要 (事業内容など) (※2)
1	FPT コーポレーション (FPT)	IT	8.8	有望なソフトウェア・アウトソーシングと通信の事業を有する、IT 大手
2	ホアファット鉄鋼グループ (HPG)	建材	5.9	ベトナム鉄鋼製造最大手で、国内の市場占有率 25%
3	ミリタリー・コマーシャル・バンク (MBB)	金融	5.8	個人向け融資に注力する、民間銀行大手のひとつ
4	FPT リテール (FRT)	裁量的消費財	4.9	ベトナムで 2 番目に大きな、IT 製品及び携帯通話機の小売販売会社
5	コテックコンストラクション (CTD)	産業・工業	4.9	民間建設会社の最大手で、元請、設計建築、EPC (設計・調達・建設) を手掛ける
6	ベトコムバンク (VCB)	金融	4.6	国内の大手 4 金融機関のひとつで、資産の質の高さで知られる
7	ベトテル・ポスト (VTP)	産業・工業	4.2	国内シェア 25.5% を有する郵便・配送事業者 2 位
8	ベトナム空港会社 (ACV)	産業・工業	4.0	空港運営で独占的な地位にあり、国際と国内を合わせて 20 以上の空港を全ベトナムで運営
9	ベトナム・コンテナ・ SHIPPING (VSC)	産業・工業	3.4	ベトナム北部ハイフォンにおける、港湾運営と物流の大手のひとつ
10	フーニアン・ジュエリー (PNJ)	裁量的消費財	3.4	宝飾品の製造・小売大手で、金宝飾品で 28%、銀宝飾品で 60% のシェアを有する

(※1) 英文での表記については、投資運用会社が公表している英文の資料をご参照ください。

(※2) VVF の投資運用会社提供の原文に基づき、管理会社が作成した参考訳です。

- 書面は管理会社である IQ EQ マネジメント・パミュダ・リミテッド (旧法人名: ムーア・マネジメント (パーミュダ) リミテッド) が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書面の内容は事前の通知なく変更されることがあります。

**【投資リスク】**

当ファンドは、VVF 投資証券を通じて、主として外国の株式、社債およびその他の有価証券ならびにデリバティブ商品等に投資を行います。当ファンドの受益証券1口当たり純資産価格は、VVF 投資証券およびVVF に組み入れられた株式、社債およびその他の有価証券ならびにデリバティブ商品等の値動き、為替相場の変動、金利や通貨価値の変動等の影響により上下します。VVF に組み入れられた株式、社債およびその他の有価証券ならびにデリバティブ商品等は、その発行者または取引相手方の経営・財務状況の変化ならびにそれらに関する外部評価の変化等により値動きします。これにより当ファンドの受益証券1口当たり純資産価格も変動し、投資者の皆様が損失を被ることがあります。また、円貨からご投資の際には、受益証券の買戻しおよび償還時にも外国為替相場の変動によるリスクを負います。投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、受益証券1口当たり純資産価格の下落によって損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

**【リスク要因】****＜価格変動リスク＞**

VVFの投資対象の価値およびこれにより生じる収益、ひいてはVVF投資証券の純資産価格および買戻価格は、下落することも上昇することもあります。

**＜為替リスク＞**

VVFにおいて、有価証券の売却による手取金の外貨への転換または一部の市場からの移動を行うことができるという保証はありません。また、為替相場の変動は、取引の約定日から決済義務を履行するために通貨が取得される日までの間にも生じることがあります。

**＜カンントリー・リスク＞**

当ファンドの資産の価値は、国際政治の展開、政府方針の変更、税制の変更、外国投資および外貨送金に対する規制、為替変動ならびに投資先となりうる国における法律および規制のその他の変更といった不確定要素によって影響を受けることがあります。ベトナムにおいては、政治および経済の不安定性、より高い市場閉鎖のリスク、および外国資本に対するより厳格な政府の規制が発生する可能性がより高く、これらが、連動先エンティティの投資対象の価値に影響を及ぼすことがあります。さらに、ベトナムにおける投資は、決済の不履行または遅延、ならびに証券の登録および保管に関するリスクを伴うことがあります。

**＜信用リスク＞**

VVFは、債券等への投資を行うことがありますが、債券等の発行体は、期限の到来した支払を行わないことまたは適時に元金を支払わないことで債務不履行に陥ることがあり、その場合、VVFが保有する債務証券の価値に影響が及びます。また、債務証券は、とりわけ金利の変動の影響を受けやすく、著しい価格の変動が生じることがあります。

**＜流動性リスク＞**

VVF投資証券に加え、VVFの投資対象も、流動性に欠けることがあり、これにより、当ファンドまたはVVFが望む価格および時期において投資対象を処分することができない場合があります。ポートフォリオが比較的少数の投資に集中していることも、当ファンドの流動性に影響を及ぼすことがあります。さらには、連動先エンティティの投資対象の再売却が契約上制限されていることがあり、これ自体が当該投資対象の価格に影響を及ぼすことがあります。

**＜解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動リスク＞**

受益者による受益証券の大幅な買戻しがあった場合、買戻しの資金を調達するために必要な現金を得るため、その他の場合であれば望ましいタイミングより早急に、かつ、その他の場合であれば得られたであろう価格に比べ望ましくない価格で、管理会社が当ファンドの投資対象を換金せざるを得なくなることがあります。

- 書面は管理会社であるIQ EQ マネジメント・パミュューダ・リミテッド（旧法人名：ムーア・マネジメント（パーミュューダ）リミテッド）が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書の内容は事前の通知なく変更されることがあります。

**<資金移動に係るリスク>**

行政的なリスクにより、資本の自由な移動に制限が課せられることがあります。また、ある国の対外債務状況により、課税または為替管理が突如実施される可能性があります。

**<リストラクチャリング後の早期終了のリスク>**

受益者は、当ファンドのリストラクチャリングに関する費用を負担します。かかる費用は、リストラクチャリング効力発生日後の最初の3会計年度で償却される予定です。しかしながら、当ファンドがリストラクチャリング後早期に終了した場合には、リストラクチャリング費用が直ちに費用処理され、これにより、受益証券1口当たり純資産価格が減少します。

**<その他の留意点>**

当ファンドの受益証券の取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

**【リスクに対する管理体制】**

**<管理会社のリスク管理体制>**

当ファンドに固有のリスクは、管理会社の取締役会による監視のもとで、管理会社により管理されます。

**<連動先エンティティの投資運用会社のリスク管理体制>**

VVFに固有のリスクは、管理会社の取締役会による監視のもとでVVFの投資運用会社により管理されます。

- 書面は管理会社であるIQ EQ マネジメント・パミューダ・リミテッド（旧法人名：ムーア・マネジメント（パーミューダ）リミテッド）が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書面の内容は事前の通知なく変更されることがあります。



## 【手数料等】

購入（申込み）手数料： 発行価格の上限 3.24%（税込み）

換金（買戻し）手数料： なし

管理報酬： 純資産価格の年率 0.80%（月次最低額 12,500 米ドル）

受託報酬： 純資産価格の 0.01%（四半期最低額 3,750 米ドル）

管理事務代行報酬： 純資産価格の 0.0075%（年最低額 45,000 米ドル）

保管報酬： 純資産価格の 0.02%（月最低額 1,000 米ドル）

販売会社報酬： 純資産価格の 0.70%

その他の費用・手数料： リストラクチャリングに関する費用、当ファンドの勘定で実行される全ての取引および当ファンドの管理に係る費用および出費（名義書換事務代行報酬（毎月 700 米ドルの報酬および取引費用を含みます。）等の管理事務代行業務の諸費用、監査費用および弁護士費用（開示書類の作成および提出等の業務に係る弁護士報酬ならびに監査業務に係る監査報酬を含みます。）ならびに印刷費用を含みますが、これらに限定されません。）を信託財産により間接的にご負担いただきます。

VVF の主な運用管理費用（管理報酬等）： 以下を含みますが、これらに限定されるものではありません ①VVF の投資運用会社の報酬： VVF の純資産価額の 1.25%（上限）、②VVF のグローバルディストリビューターの報酬： VVF の純資産価額の 0.625%（上限）、③申込手数料または当初手数料： 5%（上限）、④フォーラム・ワンの管理会社および預託会社の報酬： 0.25%（上限）

## 【販売会社に関する情報】

当ファンドの販売会社は、エース証券株式会社（大阪府大阪市中央区本町二丁目 6 番 11 号）であり、金融商品取引業を営む金融商品取引業者です。日本の金融庁の監督下にある証券会社であり、登録番号は、近畿財務局長（金商）第 6 号です。また、日本証券業協会の会員です。

## 【その他関係法人等】

管理会社： IQ EQ マネジメント・バミューダ・リミテッド（※）／管理会社としての業務を行います。

代行協会員： エース証券株式会社 / 代行協会員業務を行います。

受託会社： CIBC バンク・アンド・トラスト・カンパニー（ケイマン）リミテッド／受託会社としての業務を行います。

保管会社： ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン／ファンドの資産の保管業務を行います。

管理事務代行会社： BNYメロン・ファンド・マネジメント（ケイマン）リミテッド／純資産価格の評価や管理業務を行います。

（※） 管理会社は、2019年3月25日付で、法人名を「ムーア・マネジメント（バーミューダ）リミテッド」から「IQ EQ マネジメント・バミューダ・リミテッド」に変更しております。

## 【本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等】



商号等： エース証券株式会社（金融商品取引業者）登録番号： 近畿財務局長（金商）第 6 号

加入協会： 日本証券業協会

指定紛争解決機関 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

- 書面は管理会社である IQ EQ マネジメント・バミューダ・リミテッド（旧法人名：ムーア・マネジメント（バーミューダ）リミテッド）が作成したものです。
- 信頼できると判断する情報に基づいて作成しておりますが、その内容の正確性や完全性を保証するものではありません。
- 将来の市場環境の変化や基準価格の変動を予測するものではなく、ご参考情報を御提供するものです。
- 本書面の内容は事前の通知なく変更されることがあります。